

群馬県立富岡実業高等学校

学校評価一覧表 (令和5年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①地域貢献活動に積極的に参加し、その活動を評価する生徒が80%以上である。	地域貢献活動として行政や地域の小・中学校、各種団体との連携・交流を行い、普通科・農業科・工業科が協力して推進する。地域の活性化活動等を通して、生徒たちが興味や達成感をもって取り組めるよう、学年・科に応じた活動の場を設定するとともに活発に情報発信を行う。	B	A	B	農業科、工業科における専門教育については、さらなる授業改善に取り組み、生徒は興味をもち意欲的に参加している。また、地域との連携活動や交流活動においては、授業で学んだことを活かして積極的に参加する生徒もいるが、まだまだ消極的な生徒もいることが伺えた。 産業社会の変化に対応すべく1年生の学科選択に係わるガイダンス、専門教育の基礎的な講義、実験、実習を活性化させ、自分に合った学科選択を推奨していく。2・3年生においては、学習指導や各種行事の工夫・充実に取り組み、生徒が興味や達成感をもち、実業高校ならではの魅力化を図る。	生徒が地域の活動で意欲をもって参加している姿が見られる。直接的な達成感を得る機会は少ないがもしれないが、確実に人々を笑顔にしている。 富実ならではの魅力に溢れ、特色ある学校づくりが進められている。中学生は、専門教育に興味をもっている。専門教育の更なる充実に努めてもらいたい。自分の学校が好きであると感じている生徒の多さはすばらしい。
		②自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	基礎・基本を重視し、繰り返し学べる学習指導を充実させる。また、生徒会・農業クラブ・各部活動・研究部活動や生徒が意欲的に参加できる学校行事・学年行事等を工夫し、各活動にて自己有用感を高める取り組みを行う。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③「授業がわかりやすい」と、生徒の80%以上が答えている。	職員同士で生徒の情報共有して授業改善に取り組み、特性のある生徒や成績不振者への指導だけでなく、成績上位者への指導についても充実させる。	A	A	A	普段の授業や資格取得に向けた指導には、生徒と保護者の90%が満足しており、教職員側も「分かりやすい授業」の実践に向けた指導方法の工夫と改善に取り組んでいる。新入生も含めて生徒は毎年変化していく中、「前年と同じ授業」ではなく各年度の生徒に応じた指導方法の工夫と改善を進めていく。 「意欲的に学習に取り組んでいる」と評価している生徒と保護者は90%であったが、教職員の評価は78%と開きがある。教職員からの指示のみで動くのではなく、生徒が自ら考え主体的に行動できるように、専門学科だけでなく普通教科でも、これまで以上にICTの活用や指導方法の工夫と改善を図る。 「目標に応じた学力を身に付けた」と教職員・生徒の80%は評価しているが、保護者は74%と開きがある。家庭学習への取り組みが見られないことが関係していると思われる。各学科と各教科で生徒の基礎学力の向上として家庭で学習をする適切な課題の取り組みや資格取得に向けた学習を行うなど、家庭学習の習慣化を図っていく必要がある。	授業や学校行事等を見させていただき、生徒の皆さんが意欲的に学習活動に取り組んでいると感じる。 実業高校という特色を存分に活かし、専門分野を極め、将来に役立つ資格を現段階で取得できる環境は大変恵まれている。意欲的に資格取得に取り組んでいる多くの生徒が居ることは、教職員の指導が良いことが伺われる。 家庭学習の習慣化は、難しい面がありますが、各生徒がめあてをもち、学習活動に取り組める工夫をお願いしたい。
		④資格取得に向けた指導に、生徒の85%以上が満足している。	進路実現に向けた資格取得の重要性を生徒が理解できるように、家庭と連携した指導に取り組む。朝学習への取り組みを充実させ、特に漢字検定は2級の取得を目指して指導の改善を図る。	A	A	A		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が80%以上である。	一方的な授業ではなく、ICTの活用や主体的・対話的な授業の実践をとおして生徒の興味・関心を引き出し、生徒が自ら考えて答えを導き出すことができるよう授業を工夫する。課題研究を充実させることで、課題解決能力とプレゼン能力の向上を図る。	B	A	A		
		⑥自己の目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が各学年70%以上である。	生徒に明確な目標をもたせ、振り返りを行いながら必要に応じて目標を高めていく。家庭学習に取り組むことができるように課題や宿題の内容を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。	A	A	A		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦組織的な指導のため、生徒の情報交換を月に3回以上行っている。	職員会議や学年会で生徒に関する情報交換を緊密に行い、生徒の状況把握と情報の共有を図り、問題行動やいじめ問題の未然防止に努める。また、職員全体であきらめない指導を行う。生徒から出てきた相談などは抱え込まず必ず共有し柔軟な対応を組織的に行う。	A	A	A	組織的・継続的な指導においては、職員会議や学年会だけでなく、教科担当や部顧問など生徒の変化について迅速に担任・学年・生徒指導・管理職と情報共有を図ることができた。月に3回以上の情報交換を次年度も継続し、問題行動やいじめの未然防止に向けて実践していきたい。 人の嫌がることをしない、いじめ防止活動の実践をしている生徒が98%以上の評価であった。心配な生徒に関する情報をクラスメイトなどから早めに伝達があり大きな事案となる前に対応でき、高い意識による行動が見られた。生徒会本部役員を中心として標語の作成やいじめについて考えをまとめたりなど全生徒が主体的に活動ができた。 欠席率・遅刻率の目標値に達することができなかったが、2学期以降改善の方向が見られた。登校に不安を抱えている生徒や人間関係から休みがちになってしまうなど遅刻や欠席が多くなる傾向であった。早期改善に向けて生徒指導係や教育相談係を中心に学校全体で取り組み、生徒・保護者に寄り添い、学校生活の充実や豊かな心の成長へつなげるよう支援を図りたい。 朝食や睡眠時間確保など規則正しい生活を取り組んでいるについては生徒は83%と高いが、保護者では64%と大きく乖離があった。朝食の内容、睡眠時間において健康的な生活とはいかなるものかを保健の授業や生徒指導部からも基本的な生活習慣の確立や健康の留意について働きかけていきたい。	
		⑧いじめをしない許さない態度を身に付け、いじめ防止活動に主体的に取り組む生徒が80%以上である。	生徒会と連携して、生徒主体のいじめ防止活動に取り組む。全生徒が参加する標語づくり、生徒目標の立案を通して、いじめ防止活動に参加する意識をもたせる。クラスや学校で見かけた不安な事柄を迷い無く相談・報告ができる環境づくりに取り組む。	A	A	A		
		⑨欠席率が1.6%以下、遅刻率が0.5%以下である。	進路実現を見据えた指導を行い、家庭や教育相談係などと連携を取りながら、基本的な生活習慣の確立や原因究明に努め、欠席・遅刻の減少に取り組む。	D	C	C		
5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩毎日朝食を摂ることや睡眠時間の確保など、健康に留意した生活を送るよう意識している生徒が80%以上である。	規則正しい生活を送るために健康について意識を高め、スマートフォン等の利用についても関係機関と連携して指導に取り組む。	B	B	B		
		⑩毎日朝食を摂ることや睡眠時間の確保など、健康に留意した生活を送るよう意識している生徒が80%以上である。	規則正しい生活を送るために健康について意識を高め、スマートフォン等の利用についても関係機関と連携して指導に取り組む。	B	B	B		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑪進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が85%以上である。	進路に関する情報を提供する進路ガイダンス等を実施することで、生徒が自分に合った進路を選択するための情報収集や判断材料を提供する。	B	A	A	今年も進路指導の3つの柱、情報提供(進路ガイダンス、進路講演会等)、自己理解(適性検査、基礎力診断テスト等)、体験的活動(インターンシップや企業見学、学校見学等)を充実させた。3年生は、面接試験前に全職員による面接指導を実施し全員の生徒が希望する進路を実現できるよう支援をした。今年度は、インターンシップについて2年生全員が地元の実業所を中心に実施することができ、社会や職業に対する認識を深めることができた。 職業観や職業意識の形成、実践的なコミュニケーション能力の育成など有意義な成果があった。生徒へのアンケートでは、「進路の実現に向けて、挨拶や人との会話(コミュニケーション)などを自分なりに積極的に取り組んでいますか」との問いに肯定的に答えた生徒が90.8%おり、生徒が積極的に進路実現に向けてコミュニケーション能力を高めようと努力していることがわかった。今回のアンケートの結果を参考に、さらに充実した進路指導を実施し、生徒の進路希望実現に向けて指導を改善していく。	挨拶運動や各行事、地域活動において、元氣よく挨拶をしている姿を多く見ることができ高く評価できる。生徒が希望する進路を実現できるよう支援している状況や生徒が主体的に進路選択に努めていることが伺われる。 進路実現に向けて具体的に想像できる機会や学ぶ場面を設定しており、高い数値に納得ができる。今後もインターンシップ等を通して、職業に対する認識を高め、自己分析・自己理解がより深くできるよう教職員の適切な指導に努めていただきたい。
		⑫自己の適性を理解し将来の職業との関連について考えている生徒が75%以上である。	生徒が自分自身の強みや興味、適性を把握し、それをもとに進路選択をすることができるよう、自己分析・自己理解を深めるためのワークや適性検査等を実施する。	A	A	A		
		⑬挨拶やコミュニケーション等を進んで行い、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	挨拶を基本とする社会人として必要なコミュニケーション能力を身に付けさせる。職業探究活動、企業見学、インターンシップ、進学・就職対策講座などに積極的に参加し、生徒の進路選択についての知識やスキルを深める。	A	A	A		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭PTA活動や学校行事等に1回以上参加している保護者が80%以上である。	学校行事の魅力を進めるだけでなく、授業参観やPTA行事や販売会等を充実させることで保護者が学校に來校する機会を増やす。メールでの連絡やホームページを活用して、家庭や地域へ向けて情報提供を推進する。	A	B	B	感染症防止の観点からやむを得ない状況であるが、保護者が学校へ向く機会を設けている状況が伺える。 ホームページでは、学校行事や部活動の活動を幅広く発信しており、今後も積極的に取り組むことが望ましい。また、地域での生徒の活動や活躍等を見ることができ、開かれた学校づくりに取り組んでいると思われる。	
		⑮授業公開、学校からのメールや配付物、ホームページの閲覧等を通して、保護者の80%以上が学校の様子を理解できている。	ホームページの情報について速やかに更新を図る。授業や行事の様子だけでなく部活動の結果等を発信し、学校の様子を積極的に伝達する。	B	C	B		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ICTを活用した授業に、生徒の85%以上が満足している。	ICTを効果的に活用するための研修会を充実させ、生徒が学習成果を実感できるような授業を実践する。授業アンケートでICTを活用した授業についての項目を設定し、教職員の活用状況を随時点検する。	B	A	B	ICTを活用した授業には生徒・保護者の90%が満足しているが、教職員は83%である。ICTの活用に関する研修を充実させスキルアップの機会を推進し、授業参観による情報共有を図り、授業改善につなげていく。 ICTを活用した通知に多くの教職員、保護者が肯定的である。配布物については、生徒から家庭に伝わらないことが考えられる。学校からの情報をきめ細やかに提供し、確実に伝わるよう文書だけでなくメールやChromebookを活用するなど、学校と家庭との連携を推進していく。	
		⑰ICTを活用した通知に、生徒・保護者の85%以上が満足している。	ICTを活用して保護者や生徒へメールやクロームブック等を活用したの連絡を充実させる。アンケート調査等についても活用を推進する。	A	B	B		